

Title	Studies on Comparative Statics Analysis of Economic and Financial Decisions
Author(s)	尾崎, 祐介
Citation	大阪大学, 2006, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/47146
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 〈a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed"〉 大阪大学の博士論文について 〈/a〉 をご参照ください。

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

氏名	尾崎祐介
博士の専攻分野の名称	博士（経済学）
学位記番号	第 20668 号
学位授与年月日	平成 18 年 9 月 27 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当 経済学研究科経営学専攻
学位論文名	Studies on Comparative Statics Analysis of Economic and Financial Decisions (経済及び財務的な意思決定に対する比較静学分析の研究)
論文審査委員	(主査) 教授 大西 匡光 (副査) 教授 大屋 幸輔 助教授 福田 祐一

論文内容の要旨

尾崎祐介氏の博士学位請求論文は、導入部分である第 1 章と本論の計 6 章を併せて、全 7 章で構成される。

第 2 章においては、選好が非期待効用関数で表現される代表的投資主体を持つ資産市場の均衡価格を問題とし、先ず、代表的投資家の不確実性に対する態度とその順序付けを導入し、それらの理論的特徴付けを行った上で、それらをパラメータとして、均衡資産価格に対する比較静学分析を行っている。

第 3 章においては、原資産の収益における、1 次の確率支配の特別なケースと見なされる確率支配での変化に対して、均衡派生資産価格が単調に変化することを示している。また、代表的投資主体の効用関数に適切な条件を付加した場合、ノイズ・リスクは均衡派生資産価格を単調に変化させることを示している。

第 4 章においては、資産の収益が 1 次、そして 2 次の確率支配の意味で変化した場合に、均衡価格が単調に変化することを保証するための代表的投資主体の効用関数についての十分条件を明らかにしている。

第 5 章においては、資産市場で取引されるリスクと関数的依存関係のあるバックグラウンド・リスクが資産価格に与える影響を考察している。その結果、正の依存関係のあるバックグラウンド・リスクが資産価格を減少させる代表的投資主体の効用関数についての条件を明らかにしている。

第 6 章においては、バックグラウンド・リスクの導入により定義される誘導効用関数に対して、リスク回避度の順序付けが保存されるための、効用関数についての十分条件を明らかにしている。得られた十分条件は先行研究に比較して弱く、また最近の実証研究の結果と整合的な条件である。

第 7 章においては、バックグラウンド・リスクの導入が多変数効用関数をよりリスク回避的にするための必要十分条件である交差リスク脆弱性に対するいくつかの十分条件を与えている。

論文審査の結果の要旨

本論文は、主として、不確実性の変化や市場で取引できないバックグラウンド・リスクの存在が資産市場での均衡価格に与える影響についての比較静学分析を行っている。リスクと不確実性、確率優位、選好と効用、などの分野での近年の理論研究と関数の優モジュラー性に基づく新しい比較静学手法を取り入れた意欲的な研究であり、少なからずの興味深い研究成果を得ている。

代表的投資主体を仮定できない場合の検討、バックグラウンド・リスクの表現形式の吟味、さらにはアセット・プライシングの実証研究へのインプリケーション、等に若干の不满があるものの、審査担当者らは、本論文を博士（経済学）の学位を授与するに値するものと判断する。